

木曽 TRY情報まとめ | 【1】参考情報

木曽の食・自然・商いを舞台に、あなたならではの木曽との関わり方を考えてください！

※随時更新(最終更新:2026/10/08)

モデルツアーの行程(予定)

日程:2026年12月11日(金)~13日(日)(2泊3日)

※時間・訪問先は調整中のものを含みます。変更になる場合があります。

1日目 | 12月11日(金)

時間	場所	内容
17:30	木曽福島駅	参加者集合(ふらっと木曽へ徒歩移動)
18:00~	ふらっと木曽	参加者・ふらっと木曽関係者との交流会 (食事提供予定)
20:00	—	matarihouseへ徒歩移動
20:30	matarihouse	チェックイン・就寝

2日目 | 12月12日(土)

時間	場所	内容
08:30	—	朝食場所へ徒歩移動(約15分)
09:00	鳥鍵	朝食
10:00~	ふらっと木曽	きそだにマーケットの設営お手伝い
11:00~	ふらっと木曽	きそだにマーケット スタート(お手伝い・買い物・会場内で自由行動)
13:00~	小池靴店	味噌づくりのお話を伺う・買い物
15:00~	ふらっと木曽	きそだにマーケット終了、片付けのお手伝い
16:30~	—	木祖村(藪原)へ移動
18:30~	ATOM Local Dining (藪原駅前)	夕食(1人6,600円・現地個別精算)
21:00	おぎのや蔵の宿(木祖村)	チェックイン・入浴・就寝

3日目 | 12月13日(日)

時間	場所	内容
07:30	おぎのや蔵の宿	朝食(朝食付きプラン)
08:30	—	藪原駅へ徒歩移動、8:50発の電車で南木曽町へ
10:00～	勝野木材(南木曽町)	十二兼駅(9:56着)から勝野木材様の送迎で移動。工場見学・会社紹介、木曽の林業・木曽ヒノキのお話、質疑応答。木工品・アロマオイルの購入(任意)
12:00	—	車で妻籠宿へ移動
12:30～	妻籠宿(南木曽町)	昼食を含め自由散策
15:15	妻籠宿のバス停	集合・解散

※解散後は、15:26妻籠発のバスで南木曽駅へ(15:35着)。
南木曽駅15:55発の特急で、名古屋(東京or大阪)方面へお帰りいただけます。

訪問先について

訪問先	概要	URL
ふらっと木曽	木曽町福島にある、コワーキングスペースなどを備えた交流拠点。1日目の交流会と、2日目のマーケットの会場です	https://flatkiso.com/
きそだにマーケット	偶数月の第2土曜日に、ふらっと木曽で開かれるマーケット。有機野菜、ごはん、パンやお菓子、作家の手仕事品などが並びます	https://flatkiso.com/topics/entry-643.html
小池糀店	明治12年(1879年)創業。木曽町福島で、糀・こうじ味噌・甘酒をつくる蔵元です。大豆を玉にして発酵させる「味噌玉製法」で味噌をつくっています	http://www.koji-miso.com/
勝野木材	1963年創立。南木曽町で、木曽ヒノキの伐採から製材・木工品づくりまでを一貫して行う製材会社です	https://katsuno-wood.com/

おぎのや蔵の宿	木祖村・藪原にある蔵の宿。藪原駅から徒歩約15分。2日目の宿泊先です	https://www.kiso-kuranoyado.com/
素泊宿 matarihouse	木曽町福島にある素泊まりの宿。「ゆっくりと、まったりと、自分と誰かの時間を過ごす」がコンセプトです	https://www.matarihouse.com/
妻籠宿	南木曽町にある中山道の宿場町。江戸時代の町並みが残っています	https://kiso-nagano.ne.jp/

木曽郡の基本情報

項目	内容
位置	長野県の南西部
構成	木曽町・上松町・南木曽町・木祖村・王滝村・大桑村の6町村
面積	1,546.15平方km
人口	23,060人（令和7年3月1日現在）
特徴	土地の約9割を森林が占める。御嶽山や駒ヶ岳、森林浴の名所、江戸時代の風情が残る宿場など、歴史と自然に彩られた地域

食・自然・商いのヒント

アイデアを考えるときの入口として、モデルツアーで出会うものを中心にまとめています。ここにないテーマでも構いません。

分野	木曽にあるもの	関わり方を考えるヒント
食	木曽味噌・糍・甘酒などの発酵食、五平餅、そば	自分の「食」への関心（料理・発酵・栄養・発信など）と、どう組み合わせられるか
自然	木曽ヒノキをはじめとする森林、林業・製材・木工、木の香り	自分の学び（デザイン・建築・環境・ものづくりなど）や趣味と、どう組み合わせられるか
商い	きそだにマーケット、宿場町の商店、地域の小さな事業者	自分の活動（イベント運営・広報・販売・SNSなど）と、どう組み合わせられるか

木曽へのアクセス

集合は木曽福島駅(JR中央本線)、解散は南木曽駅(JR中央本線)を予定しています。

- 東京方面から:新宿駅 →(特急あずさ)→ 塩尻駅 →(特急しなの)→ 木曽福島駅 ※所要時間の目安は約3時間～3時間半
- 名古屋方面から:名古屋駅 →(特急しなの)→ 木曽福島駅 ※所要時間の目安は約1時間半
- 高速バスなど、ほかの手段でもお越しいただけます

※所要時間は目安です。最新の時刻・運賃は各交通機関のサイトでご確認ください。

モデルツアー参加時の移動・宿泊について

- 賞金(3万円)は、モデルツアーでの交通費(自宅から現地の往復)・食費として充てていただくことを前提としております。遠方からのご参加で、往復の交通費が賞金額を超える場合は、ご相談ください
- 宿泊場所は運営で手配します
(現地移動は徒歩・電車・送迎が中心。一部タクシーを運営で手配します)
- 宿泊は、1泊目・2泊目とも相部屋(ドミトリ形式)となる場合があります
- 食事は賞金からご負担ください(1日目の交流会では、一部お食事をご用意する予定です)。2日目の夕食は、1人6,600円(現地精算)となります

12月の木曽について

- 12月の木曽は冷え込みが厳しく、雪が積もったり、道が凍ったりすることがあります
- 防寒着と、滑りにくい靴のご準備をお願いします。詳しくは受賞者向け説明会でご案内します

公式サイト

項目	URL
木曽広域連合 公式HP	https://www.kisoji.com/
木曽谷とりっぷ(木曽の観光情報)	https://kiso-nagano.ne.jp/
KISO KURASHi(木曽の移住・暮らし・仕事の情報)	https://kiso-life.jp/

昨年度の取り組み ※ぜひご覧ください

昨年度は「若者のあなたが行きたくなる！長野県木曽郡を巡る地域体験プラン」を募集しました。今年度のモデルツアーは、このときの受賞プランをもとに企画しています。

記事	概要	URL
イベントレポート① (プレゼンイベント編)	受賞6組が銀座NAGANOでプランを発表した様子	https://magazine.flaspo.jp/archives/500
イベントレポート② (木曽訪問編)	上位3組が実際に木曽を訪問した様子	https://magazine.flaspo.jp/archives/1176
昨年度のTRYページ	昨年度の募集内容	https://flaspo.jp/try/629

昨年度の上位3プラン

- 食べて何を感じる？食体験型「味噌玉ツーリズム」: 木曽の発酵文化と宿場町の歴史を、味噌玉を軸に学ぶプラン
- 時を越えて出会う木曽。歴史と人のつながりが、体験者を作り手に。: ゲストハウスやボランティアを通じて、旅人が地域の「作り手側」に回るプラン
- KISO Bio-Sense Lab.: 木曽ヒノキの香りをテーマに、地域の方と価値を探るプラン

木曽 TRY情報まとめ | 【2】回答例

木曽の食・自然・商いを舞台に、あなたならではの木曽との関わり方を考えてください！

※随時更新(最終更新:2026/10/02)

※これはあくまで「書き方の一例」です。この通りに書く必要はありません。

※テーマ(食／自然／商い)も、関わり方の形(通う・離れた場所から関わる など)も自由です。あなた自身の興味・関心や活動から考えてみてください。

※学生の例(回答例A)と、社会人の例(回答例B)の2つを掲載しています。

回答例A | 学生の例

キャンパスきそだに

ー 大学のマルシェに、木曽の小さな「棚」をつくる

企画コンセプト:学園祭の運営経験 × きそだにマーケット × 木曽の発酵食

自分が運営に関わっている大学のマルシェに、木曽のつくり手の商品を並べる小さな棚を出す。自分が売り子になって、つくり手の話と一緒に届け、お客さんの反応を木曽に持ち帰る。

質問① 木曽について調査し、食・自然・商いの中で、あなたが魅力だと感じたこと/テーマを教えてください

・選んだテーマ:商い

・魅力だと感じたこと:

木曽について調べて一番惹かれたのは、大きな観光施設ではなく、つくり手の顔が見える小さな商いが続いていることです。

モデルツアーで訪れる「きそだにマーケット」は、偶数月の第2土曜日に、木曽町福島の「ふらっと木曽」で開かれているマーケットだと知りました。有機野菜やパン、お菓子、作家さんの手仕事品が並ぶそうです。

また、同じ木曽町福島にある小池糰店は、明治12年の創業で、大豆を玉にして発酵させる「味噌玉製法」を今も続けていると公式サイトに書かれていました。

私は大学で学園祭の実行委員をしていて、出店者と来場者が直接話せる場をつくるのが好きです。木曽には、まさにそういう「売る人と買う人が話せる商い」があると感じました。

質問② ①を踏まえ、あなたの興味・関心や活動と掛け合わせた、木曽との関わり方のアイデアの概要を教えてください

アイデアの名称: キャンパスきそだに

私が運営に関わっている、大学の学園祭(毎年11月)と、サークルが年に数回開いているキャンパスマルシェに、「木曽の棚」を1つ出します。

- 木曽のつくり手の商品(味噌や甘酒、木の小物など)を、少しでも預かって並べる
- 私自身が売り子になり、つくり手から聞いた話を添えて販売する
- 売れた数だけでなく、「どんな人が、何に興味を持ったか」「どんな質問が出たか」を記録して、つくり手に報告する
- 年に1回は、私自身がきそだにマーケットに手伝いに行き、顔を合わせる

木曽に行けない時期でも、東京にいながら関われる形です。

質問③ そのアイデアを考えた理由・きっかけと、あなた自身の経験・スキル・関心とのつながりを教えてください

・考えた理由・きっかけ:

昨年の学園祭で、ある地域の特産品を仕入れて販売したことがあります。商品は良かったのに、私たちが「どこで、誰が、どうやってつくっているか」を説明できず、ほとんど売れませんでした。

一方で、つくり手本人が立っていた別のブースには、人が集まっていました。そのとき、「ものを売る」より「つくり手の話を届ける」ほうが、人は足を止めるのだと気づきました。

木曽のモデルツアーでは、マーケットのお手伝いや、糺店・製材会社の訪問を通じて、つくり手の話を直接聞けます。聞いた話を、今度は自分の言葉で東京の学生に届けられると思いました。

・あなた自身の経験・スキル・関心とのつながり:

- 学園祭実行委員として、出店者の募集、ブースの配置、会計を2年間担当してきました
- サークルのSNS(Instagram)の告知も担当しています
- 将来は、地域の商品を扱う仕事に関心があります

「場をつくる」「売る」「伝える」は、今の自分がすでにやっていることなので、新しく特別なことを始めなくても、木曽と関われると考えました。

質問④ モデルツアーの内容を踏まえ、参加して確かめたいこと・知りたいことを教えてください

- きそだにマーケットの出店者の方が、お客さんにどんな声をかけ、何を伝えているのか
 - 小池靴店の味噌や甘酒は、持ち運びや保存の面で、大学のマルシェでも扱えるのか
 - 勝野木材には、どんな木工品があり、学生でも手に取りやすいものがあるのか
 - つくり手の方は、離れた場所にいる若者に、どんなことを手伝ってほしいと思っているのか
 - 少しの量だけ預かって販売する、という関わり方は、つくり手の方にとって負担にならないか
-

質問⑤ モデルツアーの後、あなた自身が木曾とどのように関わっていきたいか、イメージを教えてください

まずは、ツアーで出会った方に相談したうえで、春のキャンパスマルシェで一度、小さく試したいです。1つの商品からでも構いません。

販売のあとは、お客さんの反応をまとめて、つくり手の方に報告します。うまくいかなかった点も含めて、正直に伝えたいと思っています。

そのうえで、次の偶数月のきそだにマーケットに、今度は手伝う側として参加したいです。

将来的には、サークルの後輩にも引き継いで、私が卒業したあとも続く形にできればと考えています。

質問⑥ 実現にあたっての課題や工夫点があれば教えてください

課題1: 食品を販売するときのルール

工夫: 学園祭やマルシェには、食品の取り扱いに関する決まりがあります。まずは大学の規定を確認し、最初は包装済みで常温で扱えるものや、食品以外の商品に限って始めます。

課題2: 仕入れの量と、売れ残り

工夫: 最初から多く仕入れず、少ない数から相談します。売れ残った場合の扱いも、事前につくり手の方と決めておきます。

課題3: 自分が卒業したら終わってしまう

工夫: 個人の活動にせず、サークルの定例の企画にします。年に1回は後輩と一緒に木曾を訪れ、つくり手の方と顔を合わせる機会をつくります。

回答例B | 社会人の例

金曜の夜から、木曽へ。

ー 本業のWebデザインと写真で、木曽ヒノキの仕事を伝える

企画コンセプト: **Webデザインの仕事 × 趣味の写真 × 木曽ヒノキ**

都内で働きながら、年に数回、金曜の仕事のあとに木曽へ向かう。木が山から製品になるまでの仕事を、写真と文章で記録し、自分の発信と、つくり手が使える素材の両方として届ける。

質問① 木曽について調査し、食・自然・商いの中で、あなたが魅力だと感じたこと/テーマを教えてください

・選んだテーマ: 自然

・魅力だと感じたこと:

木曽郡は、土地の約9割を森林が占めていると知りました。その中で惹かれたのは、森が「眺めるもの」ではなく「仕事の間」になっていることです。

モデルツアーで訪れる勝野木材は、1963年の創立で、木曽ヒノキの伐採から製材、木工品づくりまでを一貫して行っていると公式サイトにありました。木が山から製品になるまでの流れを、1つの地域の中で見られるのは、とても珍しいことだと感じました。

私は普段、パソコンの画面の中だけで仕事をしています。素材の出どころから手ざわりまでがつかない仕事に、強く興味を持ちました。

質問② ①を踏まえ、あなたの興味・関心や活動と掛け合わせた、木曽との関わり方のアイデアの概要を教えてください

アイデアの名称: 金曜の夜から、木曽へ。

都内で会社員として働きながら、年に3〜4回、金曜の仕事のあとに木曽へ向かい、週末を木曽で過ごします。

- 滞在中に、木に関わる仕事の現場を訪ね、写真を撮り、お話を伺う
- 帰ってから、1回の訪問につき1本、短い記事と写真にまとめる

- 自分のSNSやブログで発信するとともに、写真と文章は、つくり手の方が自由に使える素材としてお渡しする
- 在宅勤務ができる日は、前後の平日も木曾に滞在して仕事をする

移住や転職ではなく、今の仕事を続けたまま関わる形です。

質問③ そのアイデアを考えた理由・きっかけと、あなた自身の経験・スキル・関心とのつながりを教えてください

・考えた理由・きっかけ:

仕事で、家具を扱う会社のWebサイト制作を担当したことがあります。そのとき、商品の写真は何百枚も扱ったのに、使われている木がどこで育ち、誰が製材したのかを、私は一度も知ろうとしませんでした。

サイトを公開したあとで、「つくる過程を知らないまま、伝える仕事をしている」ことが気になるようになりました。木曾のモデルツアーの内容を見て、ここなら最初から最後までを自分の目で見られると思いました。

・あなた自身の経験・スキル・関心とのつながり:

- Webデザイナーとして4年間、企業サイトの制作に携わっています
- 趣味で写真を撮っていて、取材をして文章にまとめることにも慣れています
- 週に数日は在宅勤務ができるため、場所を選ばずに働ける日があります

社会人なので、長い休みは取れません。だからこそ、金曜の夜に出発して週末で関わる、という形を考えました。

質問④ モデルツアーの内容を踏まえ、参加して確かめたいこと・知りたいことを教えてください

- 勝野木材の工場見学で、どこまで撮影や発信をしてよいのか
 - つくり手の方が、「外の人に伝わりにくい」と感じているのは、仕事のどの部分なのか
 - つくり手の方にとって、どんな写真や文章があると役に立つのか
 - ふらっと木曾は、滞在中に仕事をする場所として利用できるのか
 - 金曜の仕事のあとに出発して、無理なく通える距離なのか
-

質問⑤ モデルツアーの後、あなた自身が木曾とどのように関わっていきたいか、イメージを教えてください

まずは、モデルツアーで見聞きしたことを、写真と文章で1本にまとめます。公開する前に、訪問先の方に必ず見ていただきます。

そのうえで、季節を変えて年に数回、木曾を訪ねたいです。同じ場所を続けて記録することで、1回の訪問では見えない仕事の流れが伝えられると考えています。

慣れてきたら、職場の同僚や友人を1人ずつ誘って、一緒に訪ねたいと思っています。

質問⑥ 実現にあたっての課題や工夫点があれば教えてください

課題1: 仕事との両立

工夫: 無理のない回数にするため、最初は年に3~4回と決めます。金曜の夜に出発し、日曜に戻る形を基本にします。

課題2: 撮影や掲載の許可

工夫: 現場には、撮ってはいけない場所や、出してはいけない情報があるはずです。訪問の前に撮影の範囲を確認し、公開の前には必ず内容を見ていただきます。

課題3: 一方的な発信にならないか

工夫: 自分が撮りたいものだけを撮るのではなく、つくり手の方が「これがあると助かる」と思うものを最初に伺います。お渡しした写真や文章が実際に使われたかどうか、次の訪問のときに確かめます。

木曽 TRY情報まとめ | 【3】よくある質問(FAQ)

木曽の食・自然・商いを舞台に、あなたならではの木曽との関わり方を考えてください！

※随時更新(最終更新:2026/10/08)

■ 応募について

Q. 応募条件に年齢や居住地の制限はありますか？

A. 居住地の制限はなく、全国どこからでもご応募いただけます。18歳以上のすべての若者(大学生・専門学生・社会人等)を対象としています。

なお、受賞された場合は以下への参加が必要となりますので、日程をご確認のうえご応募ください。

- 受賞者向け説明会:2026年12月2日(水)19:00～(オンライン)
- モデルツアー:2026年12月11日(金)～13日(日)(2泊3日／長野県木曽郡)※全日程の参加必須
- ツアー後の振り返り:12月下旬～1月中旬(オンライン・個別)※参加必須
- 関わり方プランの提出:2027年1月15日(金)

Q. 木曽に行ったことがなくても応募できますか？

A. はい、応募可能です。木曽を訪れたことがない方の、初めて調べたときに感じたことや、知らないからこそ気づく視点も歓迎します。参考情報もあわせてご覧ください。

Q. 地域づくりや観光の知識がなくても応募できますか？

A. はい、専門知識は不要です。今回募集しているのは、あなた自身の興味・関心や普段の活動と掛け合わせた、木曽との関わり方のアイデアです。

Q. チームで応募できますか？

A. 今回は、個人(1人)での応募とさせていただきます。

一緒に参加したい方がいる場合は、応募はお一人ずつ、両者それぞれ投稿が必要です。応募時のアンケートに、その方のお名前をご記入ください。審査は個人ごとに行いますが、受賞の際は、一緒に参加できるかどうかとも考慮します。

Q. 応募にお金はかかりますか？

A. 応募は無料です。受賞した場合は、賞金3万円と、モデルツアーへの無料ご招待があります。

Q. 応募後にプランを修正できますか？

A. 応募締め切り(2026年11月15日(日)23:59)までは、何度でも修正・再提出が可能です。

Q. 複数のTRYに同時に応募できますか？

A. 他のTRYへの同時応募は可能です。ただし本TRYへの応募は、お一人につき1プランまでとさせていただきます。

■ プランの作成について

Q. どんなテーマでプランを考えればいいですか？

A. 木曾の「食・自然・商い」を舞台に、あなた自身の興味・関心や活動と掛け合わせた関わり方であれば、形式は問いません。例えば以下のような切り口があります。

- 食: 料理や発酵が好きな人が、木曾味噌を使ったレシピを考え、SNSや大学のコミュニティで発信する
- 自然: ものづくりやデザインを学ぶ人が、木曾ヒノキの木工品やアロマを使った企画を考える
- 商い: イベント運営や広報に関心がある人が、きそだにマーケットの出店や発信に関わる

上記に限らず、活動・企画・サービス・仕組みなど、自由な形式でご提案ください。木曾に通う形でも、離れた場所から関わる形でも構いません。

Q. モデルツアーの内容は、応募前に確認できますか？

A. はい。参考情報に、モデルツアーの行程(予定)と訪問先を掲載しています。質問④「モデルツアーの内容を踏まえ、参加して確かめたいこと・知りたいこと」は、こちらを見ながらご記入ください。

Q. モデルツアーの行程を変える提案をしてもよいですか？

A. モデルツアーは、あらかじめ決まった行程で実施します。行程に沿って参加いただきながら、ご自身の関わり方について理解を深めていただく形となります。

Q. 提出する内容やフォーマットは？

A. FLASPOの応募フォームから、文章またはスライド(PDF・PowerPoint等)で提出いただけます。スライドの場合はGoogle Drive等にアップロードのうえ、URLを貼り付けてください。その際は共有権限にご注意いただき、外部端末からも閲覧できることを必ずご確認ください。画像・イラストの添付も自由です。

Q. どのくらい具体的に書けばいいですか？

A. 文章の長さやスライドの枚数では評価しません。「あなたが、何と掛け合わせて、どう木曾と関わるか」というアイデアの全体像が伝わればOKです。大きな計画である必要はありません。回答例もご参考ください。

Q. 評価基準は何ですか？

A. 以下の4つの観点で評価します。

- 木曽の理解度: 木曽の資源・特性や、モデルツアーの内容を踏まえた提案か
- 独自性: あなた自身の経験・強みと木曽の魅力を掛け合わせた独自の発想か
- 当事者性: あなた自身の興味・関心や活動と結びついているか
- 継続して関わる意欲: モデルツアーの後も、木曽と継続して関わっていききたいという意欲が伝わるか

Q. 誰が審査するのですか？

A. 木曽広域連合およびFLASPOが審査を行います。

■ 特典・モデルツアーについて

Q. 賞金の詳細を教えてください。

A. 上位5名に、それぞれ賞金3万円を贈呈します。

賞金は、モデルツアーでの交通費（自宅から現地の往復）・食費として充てていただくことを前提としております。遠方からのご参加で、往復の交通費が賞金額を超える場合は、事務局（info+kiso@flaspo.jp）までご相談ください。

Q. モデルツアーの詳細を教えてください。

A. 以下のとおりです。

- 日時: 2026年12月11日（金）～13日（日）（2泊3日）
- 会場: 長野県木曽郡
- 費用: 参加費無料（宿泊・現地移動は運営で手配します）
- 内容: 地域の方々との交流会、きそだにマーケットの出展、木曽味噌の糀店・木曽ヒノキの製材会社の訪問など

行程の詳細は、参考情報をご確認ください。

Q. モデルツアー中の費用は、何が自己負担になりますか？

A. 宿泊は運営で手配するため、ご負担はありません。（現地移動は、バス等一部公共交通機関での移動をお願いする場合があります。）

現地までの往復交通費と食費は、賞金からご負担ください（1日目の交流会では、一部お食事をご用意する予定です）。

2日目の夕食は宿泊先の最寄り駅前のお店を予約しており、1人6,600円（現地個別精算）となります。お土産などの個人的な費用は、ご自身でのご負担となります。

Q. 宿泊先はどこですか？

A. 1泊目は木曽町の素泊宿 matarihouse、2泊目は木祖村のおぎのや蔵の宿を予定しています。いずれも、相部屋(ドミトリ形式)となる場合があります。

Q. 現地での移動はどうなりますか？

A. 1日目と2日目の日中は、木曽福島駅周辺を徒歩で移動します。2日目の夕方に木祖村(藪原)へ移動し、3日目は電車で南木曽町へ向かいます。十二兼駅からは勝野木材様の送迎、妻籠宿からはバスで南木曽駅へ移動する予定です(必要に応じて、タクシーを運営で手配します)。

Q. 集合・解散の場所と時間を教えてください。

A. 集合は12月11日(金)17:30に木曽福島駅、解散は12月13日(日)15:15に妻籠宿のバス停を予定しています。解散後は、15:26妻籠発のバスで南木曽駅(15:35着)へ向かうと、南木曽駅15:55発の特急にお乗りいただけます。

Q. 12月の木曽ですが、防寒装備などは必要ですか？

A. 12月の木曽は冷え込みが厳しく、雪が積もったり、道が凍ったりすることがあります。防寒着と、滑りにくい靴のご準備をお願いします。詳しくは受賞者向け説明会でご案内します。

Q. モデルツアーに参加できなくなった場合はどうなりますか？

A. モデルツアーへの全日程の参加は、受賞の条件となっております。参加が難しくなった場合は、速やかに事務局(info+kiso@flaspo.jp)までご連絡ください。

Q. 受賞後のフォローアップはありますか？

A. はい。モデルツアーの前に、受賞者向け説明会(12月2日・オンライン)を実施します。モデルツアー当日は、地域体験コーディネーターが同行します。ツアーの後は、オンラインでの個別の振り返り(12月下旬～1月中旬・参加必須)を行い、木曽との関わり方をプランにまとめて提出いただきます(1月15日)。

■ 選考・日程について

Q. 応募から、関わり方プランの提出までの流れを教えてください。

A. 以下の流れで進みます。

1. 2026年10月9日(金)～11月15日(日)23:59: 応募受付
2. ～11月下旬: 審査
3. 11月下旬: 審査結果発表・受賞者へご連絡
4. 12月2日(水)19:00～: 受賞者向け説明会(オンライン)
5. 12月11日(金)～13日(日): モデルツアー(長野県木曽郡／2泊3日)※参加必須
6. 12月下旬～1月中旬: ツアー後の振り返り(オンライン・個別)※参加必須
7. 2027年1月15日(金): 関わり方プランの提出

※スケジュールは一部前後する可能性があります。

Q. 受賞人数は何名ですか？

A. 上位5名です。

Q. 審査結果はどのように通知されますか？

A. FLASPOにご登録のメールアドレス宛に個別でご連絡いたします。2026年11月下旬を予定しています。

Q. 受賞者向け説明会に参加できない場合はどうなりますか？

A. 受賞者向け説明会には、原則としてご参加をお願いします。やむを得ず参加が難しい場合は、事務局(info+kiso@flaspo.jp)までご連絡ください。個別に調整のうえ、説明会の内容は後日あらためてご案内します。

■ アイデアの取り扱いについて

Q. 提出したアイデアはどうなりますか？

A. FLASPOの利用規約(<https://flaspo.jp/terms-of-service>)に準拠します。受賞プランの知的財産権は賞金のお支払い時に主催者へ移転します。受賞されなかったプランの権利は応募者ご本人に帰属します。

受賞者のアイデアについては、ご本人と協議のうえ、木曽地域における実現・活用を検討する場合があります。

Q. 応募内容は公開されますか？

A. そのまま一般公開することはありません。FLASPO上で個人情報を伏せたうえで、参考事例として公開する可能性があります。

■ 木曽広域連合 / 木曽郡について

Q. 木曽郡とはどんな地域ですか？

A. 長野県の南西部に位置し、木曽町・上松町・南木曽町・木祖村・王滝村・大桑村の6町村で構成される地域です。土地の約9割を森林が占め、御嶽山や駒ヶ岳の登山、森林浴の名所、江戸時代の風情が残る宿場など、歴史と自然に彩られた観光資源を有しています。

木曽広域連合は、この6町村で構成する広域行政組織です。

Q. 昨年度はどんなコンテストでしたか？

A. 昨年度は、木曽郡を巡る地域体験プランを募集し、受賞者が実際に木曽を訪問しました。今年度のモデルツアーは、昨年度の受賞プランをもとに企画しています。昨年度の様子は、参考情報のイベントレポートをご覧ください。

■ お問い合わせ

本コンテストに関するご質問は、以下までご連絡ください。

メール:info+kiso@flaspo.jp

本ドキュメントは随時更新します。最新情報はFLASPOのTRYページをご確認ください。